**令和元年度**
**福島県 大学生の力を活用した集落復興支援事業**

# 小野町谷津作行政区実態調査報告書

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チーム Part 2

指導教員 経済学部国際環境経済学科 米山 昌幸

**[目次]** ページ

1．はじめに……3
2．小野町・谷津作行政区の概要……5
2.1．小野町・谷津作行政区の位置
2.2．小野町・谷津作行政区の概観
3．小野町・谷津作行政区の現状……6
3.1．小野町の人口動態と谷津作行政区の人口ピラミッド
3.2．小野町の地域的特性
3.2.1．小野町の地形
3.2.2．小野町の気候
3.３．小野町・谷津作行政区の暮らし
3.3.1．生活関連施設
3.3.2．交通手段
3.3.3　U・I ターン移住者へのヒアリング
3.4．小野町・谷津作行政区の産業
3.4.1．小野町谷津作行政区の産業の概観
3.4.2．直売所「おのげんき」
3.4.3．小野町の特産品
3.4.4．宿泊業
3.5．小野町・谷津作行政区の地域資源
3.5.1．小野町温泉源泉「大地の泉」
3.5.2．鹽竈神社の例大祭
3.5.3．東堂山満福寺
3.5.4．リカちゃんキャッスル
3.5.5.諏訪神社の神木翁杉・媼杉(じじすぎ・ばばすぎ)
4．小野町・谷津作行政区の抱える問題と課題……25
4.1．現地調査から得られた問題点
4.2．問題点から設定した取り組むべき課題
5．課題解決のための提案…… 27
5.1．まちづくりマルシェの開催
5.2．温泉開発モデルの選択肢の提示
5.3．足湯、または足湯カフェ・プランについての若干の考察
5.4．温泉を活用したまちづくり講演会・アイデアコンテストの開催
6．おわりに……38

## 1．はじめに

2019 年度福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に、獨協大学地域活性化プロジェクトの 4 チーム目の新規チームとして応募した米山チーム Part 2 は、小野谷津作行政区を担当することになった。9 月と 2 月の 2 度の現地調査を行い、地元の方の意見もヒアリングして、現地の問題点を明らかにして、そのから課題についてまとめた。

小野町谷津作行政区を担当する米山チーム Part 2 は、菅野沙耶(代表：英語学科 3 年)、古川恵理(副代表：言語文化学科 3 年)、風口大和(経済学科 1 年)、木村捷人(同 1 年)、清水空(1 年)、白鳥翔太(同 1 年)、緒方優姫(国際環境経済学科 1 年)、塩野未玖(同 1 年)、鈴木結(同 1 年)、常盤知里(同 1 年)の 4 学科 10 人からなるチームである。

米山チーム Part2 は、2019 年 9 月 28・29 日の 2 日間、初めて小野町谷津作行政区に現地調査に入り、図表 1 の行程表のとおり第 1 回実態調査を実施した。小野町谷津作行政区副区長二瓶晃一氏に同行していただき、現地視察を行った。1 日目は小野町の歴史や全体像について説明を受けたあと、地元で 300 年続く鹽竈神社の例大祭に視察・参加した。小町温泉源泉「大地の泉」を利用した集落復興支援事業ということで、農地の一角にあり震災後も自噴する「大地の泉」を視察した。2 日目は小野町の観光名所である東堂山やリカちゃんキャッスルを視察し、地元の直売所や定食屋を訪れた。また、地域の方々や小野町源泉活用検討委員会の方々からお話を伺うことができた。この視察によって少子高齢化、後継者問題、耕作放棄地、U・I ターン移住者の疎外、町全体に活気がないなど、さまざまな問題点が見えてきた。

図表 1 第 1 回実態調査行程表

| 時程 | 行程 |
|---|---|
| 9 月 28 日(土) | |
| 7:20～10:50 | 高速バス(福島交通「あだたら号」)新越谷～郡山・須賀川線<br>新越谷駅西口発～郡山駅着（3 時間 30 分） |
| | JR 磐越東線(小野新町行) |
| 11:19～12:10 | 郡山駅発～小野新町駅着 |
| 12:30～13:30 | 小野新町駅にて現地スタッフと合流後、小野町で昼食<br>徒歩にて（5 分）宿（Guest House Komachi へ） |
| | 徒歩にて源泉へ |
| 14:30～15:00 | 「大地の泉」小町温泉源泉を視察（源泉温度 27℃　自然噴出） |
| 15:00～18:00 | 谷津作から小野新町を歩きながら「秋祭り」を現地視察 |
| 18:00～ | 夕食　CIRCOLO・IL・PICCOLO・CAMPO(チルコロ・イル・ピッコロ・カンポ)にて<br>※震災後、U ターンしてレストランを経営する若いオーナーにもお話しをうかがう。<br>夕食後は、祭を見学しながら、宿へ戻る。 |
| 9 月 29 日(日) | |
| 8:00～9:00 | 宿にて朝食（地元のかまめしやさんのケータリング）<br>※小野町の特産品一升漬けをつくっている方なのでお話しを聞く |
| 9:30～11:30 | 小野町の観光資源の視察ならびに直売所の見学<br>・リカちゃんキャッスル<br>・東堂山（五百羅漢）<br>・直売所おのげんき |

| | |
|---|---|
| 12:00～13:00 | レストラン志木にて昼食 |
| 13:30～15:30 | 地域住民との交流会（谷津作研修センター）<br>（小町温泉源泉活用検討委員会に自由参加する方々） |
| | JR 磐越東線(郡山行) |
| 16:53～17:19 | 小野新町駅発～郡山駅着 |
| | (福島交通「あだたら号」)新越谷～郡山・須賀川線（3 時間 30 分） |
| 18:15～21:45 | 郡山駅発～新越谷駅西口着 |

図表 2 の行程表のとおり、2020 年 2 月 8・9 日には「地域づくりオープンカフェ」に参加した機会を利用して、現地に入り第 2 回実態調査を実施した。2 月 8 日、福島市で開催された活動報告会「地域づくりオープンカフェ」に参加して、小野町・谷津作行政区の実態調査と、今後の源泉を活用したまちづくりの方向性について報告した。翌日 9 日には 2 回目の現地調査を行い、源泉近くに住む住民の方々にヒアリングを行い、源泉の歴史について学び、それをもとに谷津作行政区青年団の方々と課題の明確化と源泉活用法について意見交換を行った。

図表 2「地域づくりオープンカフェ」参加と第 2 回実態調査行程表

| 時程 | 行程 |
|---|---|
| 2 月 8 日(土) | JR 東北新幹線やまびこ 125 号(仙台行き) |
| 7:58～9:10 | 大宮～福島 |
| 10:00～16:00 | ザ・セレクトン福島「大学生等による地域創生推進事業」に係る活動報告会「地域づくりオープンカフェ」参加 |
| 17:00～ | 報告会終了後、谷津作行政区区長の車に同乗し小野町へ向かう |
| 18:30 | 小野町到着 |
| 19:00～20:30 | 現地食堂で夕食<br>・3/17・18 の有楽町駅前「ふくしまフェスタ」出展の打ち合わせ(一笑漬けなど、出品商品の確保などについて打ち合わせる) |
| 20:30 | 宿泊先(二瓶さんが営む Guest house komachi)へ向かう<br>・翌日の源泉近隣住民へのヒアリング調査の質問事項の打ち合わせ<br>・青年団との意見交換でのヒアリング内容について打ち合わせ |
| 2 月 9 日(日) | |
| 8:00～9:00 | 宿泊先にて朝食 |
| 9:30～10:30 | ・小町温泉源泉「大地の泉」を視察<br>・源泉近隣住民に温泉開発に関するヒアリングを行う。 |
| 11:00～12:00 | リカちゃんキャッスル見学 |
| 12:00～13:00 | MANMA HOUSE（トレーラーハウスのレストラン）にて昼食（予定） |
| 13:30～15:30 | 地域住民との交流会（場所未定）<br>・谷津作行政区青年団の方と意見交換<br>・活動報告会での報告について地域の方と意見交換 |
| | JR 磐越東線(郡山行) |
| 16:29～17:19 | 小野新町～郡山 |
| | JR 東北新幹線やまびこ 150 号(東京行き) |
| 17:30~18:22 | 郡山～大宮 |

現地調査から、現地の人々は小野町で生まれ育ち、小野町が好きだからこそ住み続けていることがよくわかった。地域のつながりも強く、いい面も問題点も見つけることができた。現地調査から戻って、メンバーはミーティングを重ねて、本調査報告書をまとめた。

本調査報告書は、事前調査と現地調査にもとづいて、小野町・谷津作行政区の抱える問題点を明らかにし、そこから小野町・谷津作行政区として取り組むべき課題を抽出し、課題に対してメンバーが提案を出し合い、議論を重ねて今後の方向性についてまとめたものである。次年度には、温泉開発の専門家の意見も聞いたうえで、源泉を活用したまちづくりの実証実験につなげたいと考えている。報告書の構成は以下の通りである。

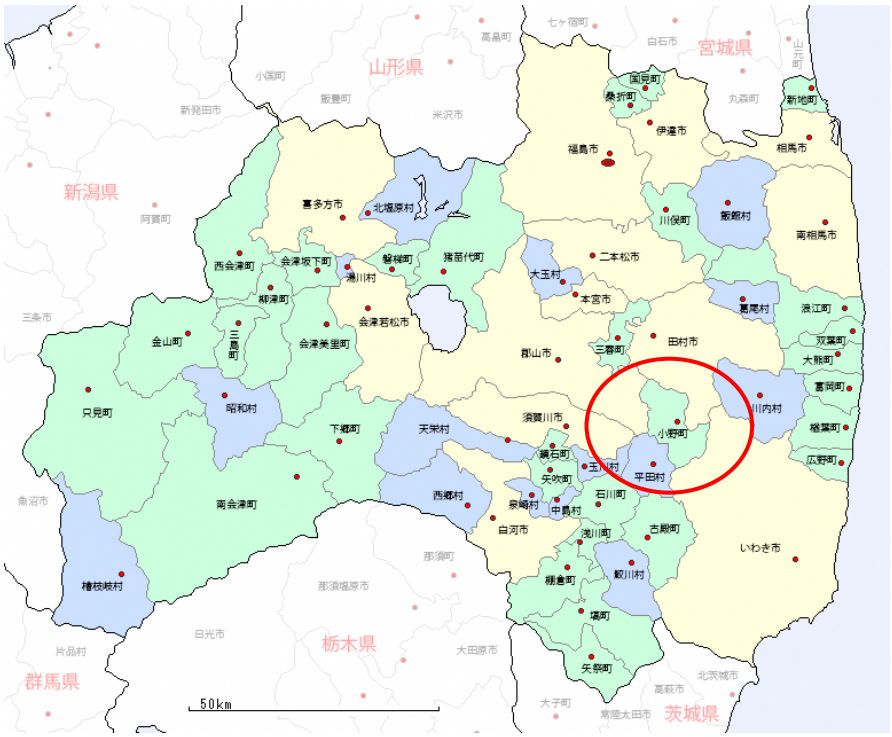
まず、第 2 節で現地調査に入る前の事前調査を中心として、小野町・谷津作行政区の概要をまとめている。第 3 節では現地調査に基づいて小野町・谷津作行政区の現状についての考察している。第 4 節では、2 節、3 節の考察を踏まえて、小野町・谷津作行政区が抱える問題を列挙し、そこから我々が取り組むべき課題を抽出した。そして第 5 節では、我々が委託された源泉を活用したまちづくりの今後の進め方を提示している。

## 2. 小野町･谷津作行政区の概要

### 2.1. 小野町･谷津作行政区の位置

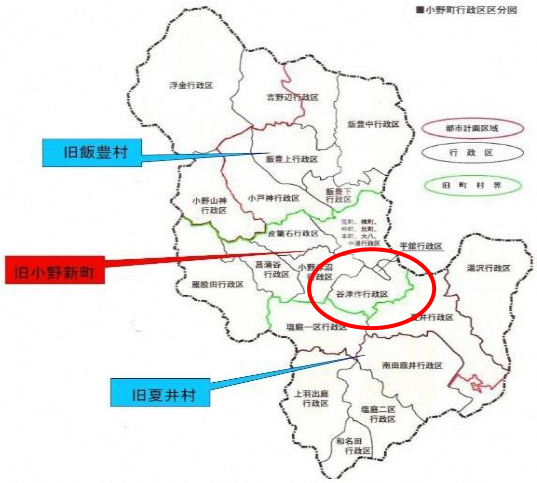
小野町は福島県中通りの東部に位置し、阿武隈山系の中心地に属し、田村郡の南部に位置している。北に田村市、南にいわき市、西に郡山市・平田村と隣接する(図表 3 参照)。小野町には 27 の行政区があり、谷津作行政区は旧小野新町に位置している(図表 4 参照)。

図表 3 福島県小野町の位置




[出典]福島県の地図(市町村区分図)(https://uub.jp/map/fukushima/)

図表 4 小野町の行政区分と谷津作行政区の位置




[出典]「都市と田園環境の共生等のあり方について」(事例発表)(小野町地域整備課)(以下の URL 参照)
https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/29929.pdf

## 2.2. 小野町・谷津作行政区の概観

小野町の沿革は、1889(明治 22)年に、飯豊村、小野新町村、夏井村が誕生し、1896(明治 29)年には小野新町村が小野新町になり、1955(昭和 30)年には、小野新町・飯豊町・夏井村が合併して、小野町が誕生した。図表 4 をみると、谷津作行政区は旧小野新町村に位置している。

2020(令和 2)年 1 月 1 日時点で、小野町の人口は 9,672 人(男性 4,758 人、女性 4,914 人)、世帯数は 3,465 世帯である。また谷津作行政区の人口は 2020(令和 2)年 1 月 31 日時点で、987 人(男性 478 人、女性 509 人)である。

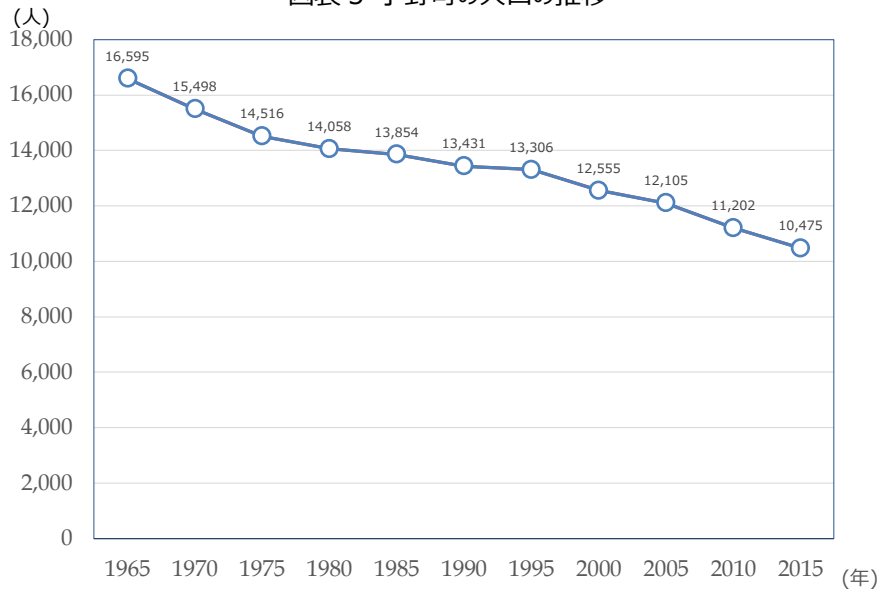
小野町は郡山市といわき市のちょうど中間に位置しており、車でのアクセスは磐越自動車道で郡山 JCT から 39km(約 30 分)、いわき JCT から 37km(約 25 分)、電車のアクセスは JR 磐越東線で郡山駅から 50 分余り、いわき駅から 45 分弱の距離にある。このことから住民の生活圏も両方に掛かっている。

# 3. 小野町・谷津作行政区の現状

## 3.1. 小野町の人口動態と谷津作行政区の人口ピラミッド

図表 5 は、1965(昭和 40)年以降 2015(平成 27)年までの小野町の人口の推移を示したものである。1965 年には小野町の人口は 16,595 人であったが、1980(昭和 55)年頃までは急速に減少して、その後 1995(平成 7)年頃までは緩やかに低下して 1995 年には 13,306 人となり、その後再び減少を加速させて 2015 年には 10,475 人となっている。その後、2020(令和 2)年には 9,672 人と 1 万人を切っている。

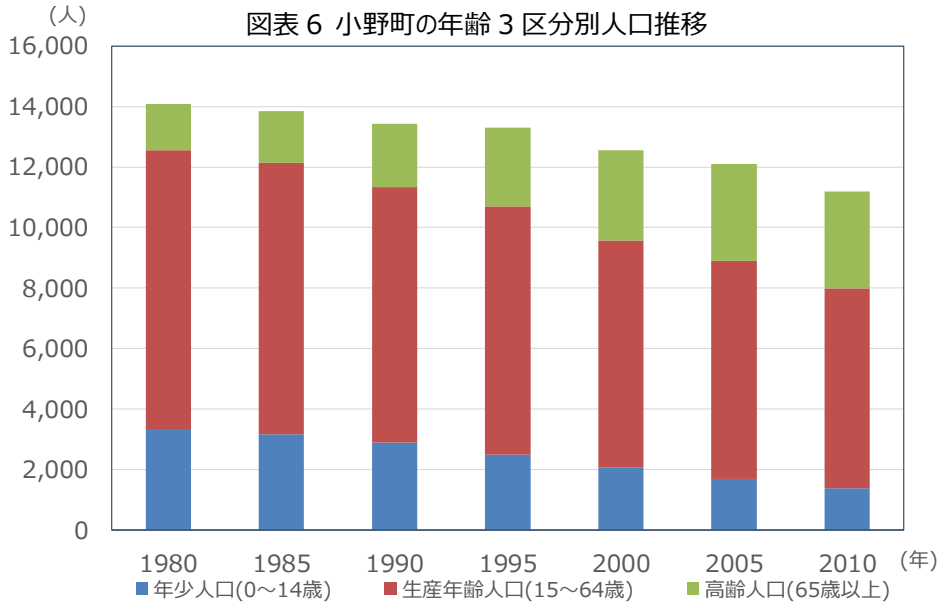
図表 5 小野町の人口の推移




[出典]『小野町公共施設等総合管理計画』(以下の URL を参照)を基に作成。[原資料]国勢調査による。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/2/kanrikeikaku.html)

図表 6 は、1980 年から 2010 年までの小野町の年齢 3 区分別人口の推移を表したものである。1980 年に比べて 2010 年には年少人口(0～14 歳)が半減しているのに対して、高齢人口(65 歳以上)はおよそ 3 倍に増えており、生産年齢人口(15～64 歳)はおよそ 3 分の 2 に減少している。少子高齢化の傾向が顕著に現れており、これにより小野町の高齢化率は 1980 年の 10.8%から 2010 年には 28.6%まで上昇している。

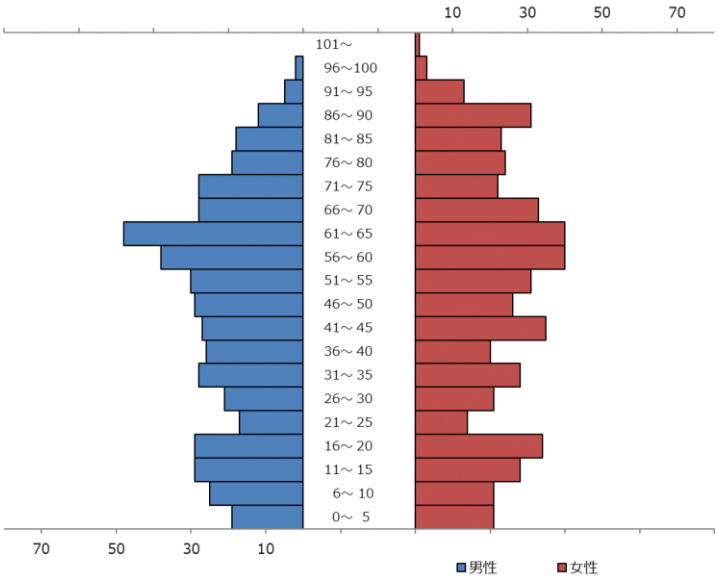
図表 6 小野町の年齢 3 区分別人口推移




[出典]『小野町人口ビジョン(平成 27 年 10 月)』(以下の URL を参照)を基に作成。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/uploaded/attachment/5718.pdf)

図表 7 は、谷津作行政区の 2020(令和 2)年 1 月 31 日時点での人口 987 人の人口ピラミッドを図示したものである。男女とも 21～25 歳の年齢区分が大きくくびれている。男女とも 21～30 歳の年齢区分が少ないことは、子育て世代が少なく少子化を引き起こしている要因とも考えられる。

図表 7　谷津作行政区の人口ピラミッド




[出所]小野町役場企画政策課より提供されたデータより作成。

## 3.2. 小野町の地域的特性

### 3.2.1. 小野町の地形

小野町の中央を太平洋に次ぐ右支(うし)夏井川[1]が流れ、平坦地を形づくっている。写真 1 は、現地調査の際にメンバーが撮影した小野町の風景だが、周りを山に囲まれた平坦地であること、その平坦地を右支夏井川が流れていることがわかる。標高は市街地で 400m と高く、阿武隈高原中部県立自然公園に囲まれた中山間地域にあり、小野町の四方を標高 700m 以上の山々が囲む(写真 1 参照)。町内の 3 か所(東堂山のスギ・諏訪神社の大スギ・高柴山のツツジ(写真 2))が「ふくしま緑の百景」に選定される等、優れた自然環境に恵まれている。

[1] 夏井川は、福島県東部の阿武隈山地中央部に源を発し、西流して小野町夏井地区で南東に向きを変え、いわき市北部を横断し太平洋に注いでいる 67.1 キロメートルの 2 級河川である。

写真 1　小野町の風景

[出典]現地調査の際にメンバーが撮影(以下、出典が示されていない写真はすべてメンバーが撮影)

写真 2　高柴山のツツジ

[出典]小野町ホームページ"県立自然公園高柴山"(以下の URL)より引用。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/site/kankou/mt-takashiba.html)

### 3.2.2. 小野町の気候

小野町は内陸性の気候で、山々に囲まれていることから山岳気候を呈する準高冷地である[2]。この冷涼な気候や昼夜の温度差といった特性を活かして、水稲を主として、野菜、畜産、きのこ、葉タバコ等の農作物を生産している。気温が低く昼間と朝夕の寒暖差が大きいので、野菜がおいしく育つと言われている。図表 8 をみると、近年では最高気温が 35、6℃、最低気温も-10℃にもなる年もあるようだが、図表 9 の小野新町の雨温図をみると、1981～2010 年の過去 30 年間の平均では最高気温は 30℃に届いておらず、最低気温も-5℃程度である。近年では平年に比べて最高気温が上昇していると思われる。

---

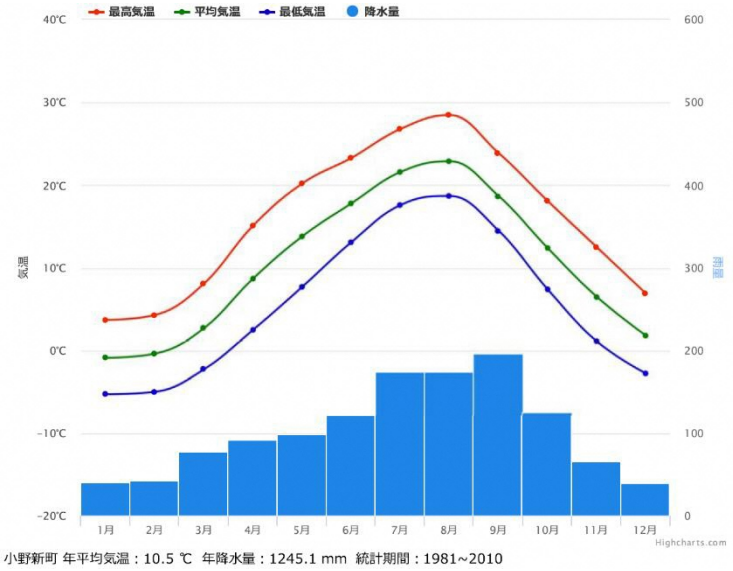
[2] 小野町公式ウェブサイト「町の概要」「気候」(以下の URL)を参照。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/2/gaiyou.html)

図表 8　小野町の気候

| 年 | 気温（度） | | | 年間降水量（ミリメートル） | 平均風速（毎時メートル） | 年間日照時間（時間） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 平均 | 最高気温 | 最低気温 | | | |
| 2014年 | 10.6 | 35.5 | -9.9 | 1,320 | 1.2 | 1,745.7 |
| 2015年 | 11.4 | 36.0 | -9.3 | 1,093 | 1.2 | 1,719.9 |
| 2016年 | 11.5 | 33.5 | -10.3 | 1,164 | 1.2 | 1,723.9 |
| 2017年 | 10.6 | 35.1 | -9.5 | 1,126 | 1.2 | 1,656.2 |

[出典]小野町公式ウェブサイト「町の概要」「気候」(以下の URL)より引用。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/2/gaiyou.html)

図表 9　小野新町の雨温図




[出典]「気温と雨量の統計のページ」「福島県小野新町の気候」(以下の URL)より引用。
(https://weather.time-j.net/Climate/Chart/Ononiimachi)

## 3.3 小野町・谷津作行政区の暮らし

### 3.3.1. 生活関連施設

生活関連施設は、学校、病院、幼稚園、スーパーもヨークベニマル小野町店、FOOD MART グラントマト小野店などがあり、充実しているため生活には困らないが、買い物には郡山やいわきまで車で出る人も多い。町内には公立幼稚園は小野わかば幼稚園が 1 つ、保育園は 4 つある。町内には 4 つの小学校があり、谷津作地区の子供たちの通うのは小野新町小学校である。町内に 1 つの中学校である小野町立小野中学校は谷津作行政区にある。また町内には 1 つの高校(福島県立小野高等学校)がある。病院は公立小野町地方綜合病院がある。

公共福祉施設を見てみると、小野町文化公園内には、小野町多目的研修集会施設、小野町勤労青少年ホーム、「小野町ふるさと文化の館」(図書館)、小野町公民館(多目的研修集会施設内)などが集まっている。スポーツ施設としては小野運動公園施設内に、B&G 海洋センター、町民体育館、野球場、多目的グラウンド、ゲートボール場がある。

飲食店には、小野新町だけでもイタリア料理の「CIRCOLO・IL・PICCOLO・CAMPO(チルコロ・イル・ピッコロ・カンポ)」(大字小野新町中通 92)、洋食レストランの「KITCHEN フライパン」(大字小野新町品ノ木 38-1)、定食屋の「すずきや食堂」(大字小野新町中通 33-3)、「あさくさ」(小野新町宿ノ後 119-4)、「伽羅」(小野新町美売 56-13)、とんかつ屋の「うろこや分店」(大字小野新町東,馬番 2-7)、ラーメン屋の「仙台屋食堂」(大字小野新町本町 33-5)などがある。また、谷津作行政区には洋食レストランの「レストラン志木」(大字谷津作谷津 79-5)がある。飲食店はチェーン店ではなく個人経営がほとんどである。

### 3.3.2. 交通手段

小野町での交通手段についてみてみる。通学は、小中学生は徒歩、自転車、自動車による送迎による。学校から距離がある地区ではスクールバスが出ている。郡山などの高校に通う高校生は電車(JR 磐越東線)を使うのが一般的である。通勤は、小野町内外にかかわらず、基本的に移動は自動車であり、バスやタクシーもあるが日常的にはあまり使われていない。

### 3.3.3. 街並み

私たちが 9 月 28・29 日に現地調査に入って小野新町の商店街を散策した時には、小野新町駅近くでもシャッター街になっているところが多く、人通りが少なく、街の活気があまり感じられなかった(写真 3 参照)。もしかすると、鹽竈(塩釜)神社の例大祭の開催中で、臨時休業になっていたのかもしれない。

写真 3 小野新町の商店街

### 3.3.3　U･I ターン移住者へのヒアリング

震災後 5 年前に、U・I ターンしてイタリアン・レストラン「CIRCOLO・IL・PICCOLO・CAMPO(チルコロ・イル・ピッコロ・カンポ)」を経営する若いオーナーシェフ、橋本寿一氏ご夫妻(写真 4)にヒアリングを行った。ご主人の橋本寿一氏は小野町出身で、神奈川県でイタリアン・レストランを営んでいたが、地元に U ターンを決めて帰ってきた。奥様は小野町には知り合いがいなく、I ターンということになる。小野町には小野町で生まれ育った方々が多いため、少し閉鎖的でつながりが強く新しく移住してきた人々にとっては輪に入りにくいということが分かった。また奥様は田舎暮らしと聞くと自然と触れ合う機会が多そうだが、実際は自然で遊べるのは土地を所有している人だけで土地を持っていない人は自然と触れる機会が少ない。また道路に歩道がないため子供を歩かせるのは危険だとおっしゃっていた。

写真 4　CIRCOLO･IL･PICCOLO･CAMPO オーナーシェフ橋本寿一氏ご夫妻

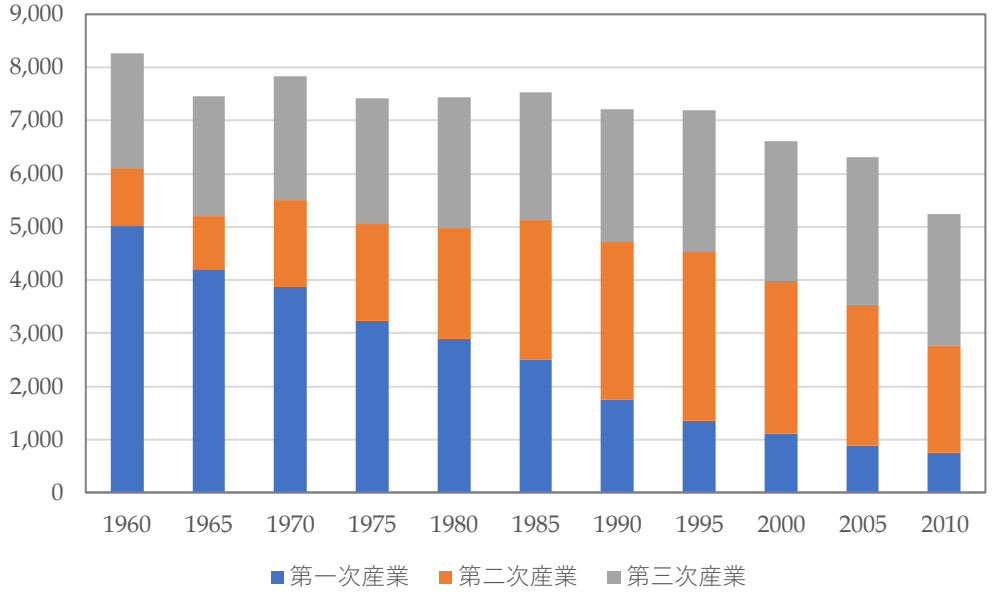
## 3.4. 小野町･谷津作行政区の産業

### 3.4.1. 小野町･谷津作行政区の産業の概要

図表 10 は小野町の産業別就業者数の推移を図示したものである。1960(昭和 35)年から 2010(平成 22)年にかけて、第 1 次産業は 5,016 人から 753 人に、4,263 人減少、85%減少している。これに対して第 2 次産業は 1,080 人から 2,010 人に 930 人増加、第 3 次産業は 2,169 人から 2,484 人に 315 人増加している。構成比でみると、1960 年には第 1 次産業が 60.7%を占めていたのに対して、2010 年には 14.4%まで低下している。一方で、第 2 次産業は 1960

年に 13.1%だったのが、1995 年 44.1%でピークを打って、2010 年には 38.3%で推移している。第 3 次産業は 1960 年に 26.2%から 2010 年の 47.3%まで増加している。

図表 10　小野町産業別就業者数の推移




[出典]小野町ホームページ「統計情報」「産業別就業者数の推移」(以下の URL)より作成。[原資料]国勢調査
(http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/3/toukei.html)

第 2 次産業の製造業について見てみよう。「小野町企業紹介パンフレット」を参照すると、小野町には 21 の企業工場が所在している。図表 11 は、「小野町企業紹介パンフレット」に紹介されている 21 の企業工場のうち、リカちゃん人形の製造・販売、観光施設「リカちゃんキャッスル」の運営を手掛ける「リトルファクトリー株式会社」と、谷津作行政区にある 3 つの企業工場のみを抜粋して掲載したものである。

図表 11　小野町の製造業(抜粋)

| 企業名 | 住所 | 業務内容 |
|---|---|---|
| リトルファクトリー株式会社 | 大字小野新町字中通 51-3 | リカちゃん人形の製造・販売、観光施設「リカちゃんキャッスル」の運営 |
| 東レ ACE 株式会社福島工場 | 大字谷津作字下中沢 1-1 | 窯業系外壁材、繊維補強セメント板「完璧」製造 |
| 株式会社オリーブコーポレーション | 大字谷津作字名馬 62-1 | シャツ・ブラウスの製造 |
| シューテックオカモト株式会社 | 大字谷津作字南作 118 | スポーツシューズ、革靴等の製造 |

[出典]「小野町企業紹介パンフレット」(以下の URL)を参照。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/uploaded/attachment/8532.pdf)

### 3.4.2. 直売所「おのげんき」

直売所「おのげんき」は、震災後、小野町を元気づかせるために建てられた直売所であり、名称もそれに由来している。地元の野菜、工芸品などを中心に販売し地産地消を推進している。そこで「おのげんき」の店員、出品者である「扇屋菓子店」(大字小野新町字荒町 44)の店主、大楽哲男氏、買い物客にヒアリングを行った(写真 5 参照)。得られた情報として以下の通りである。

・地元の農家の人たちが作った野菜などがたくさん売られていて、地域の人たちは信頼できる野菜を買うことができる。
・生産者が直接届けているので、生産者の顔がわかって安全であると店員が言っていた。
・店員さんは、スーパーに顧客が取られてしまっていると嘆いていた。
・「扇屋菓子店」の店主は、砂糖パンがテレビに何度か報道されてから多くの客さんが買いに来るようになったが、後継者がおらず、お店が続いていくかわからないと話してくださった。

以上のようなヒアリング調査から、町内の住民が安心できる買い物の場所である反面、既存のスーパーへの流客や生産者の後継者問題などを抱えていることがわかった。

写真 5　直売所「おのげんき」で視察・ヒアリングを行うメンバー

### 3.4.3. 小野町の特産品

小野町の特産品は、それほどインパクトあるお土産はないが、町内でも人気である「砂糖パン」(扇屋菓子店)(写真 6)、小野町の菓子屋さんから始まった「アイスバーガー」(シェフリー松月堂)(写真 7)がある。アイスバーガーはハンバーガーのバンズの中にアイスクリームとソースなどが入った地元で人気のお菓子である。このほか、田村地方に郷土料理として伝わる漬物である「おのっこ一笑漬け」(写真 8)がある。

写真 6 砂糖パン(扇屋菓子店)

写真 7 アイスバーガー(シェフリー松月堂)

写真 8 おのっこ一笑漬け

### 3.4.4. 宿泊業

宿泊施設としては、小野新町駅近くには駅前の「宍戸旅館」(大字谷津作平舘 123)、旅館西田屋支店(大字谷津作平舘 111)がある。町内には小町温泉と湯沢温泉があり、谷津作行政区には小町温泉源泉近くに「磐山荘 廣太屋」(大字谷津作小治郎 82)、「太田屋旅館」(大字谷津作小治郎 117)が、小町温泉からは少し離れているが「旅館 小町の湯」(大字谷津作字猪久保 18-19)があり、こちらは日帰り入浴もできる。JR 夏井駅から車で 5 分のところには、矢大臣山の南麓に 400 年の歴史をもつ湯沢温泉があり、「新湯新富館」(大字湯沢舘ノ越 13)、「元湯湯沢荘」(大字湯沢舘ノ越 11)がある。

「磐山荘 廣太屋」は 1924(大正 14)年創業で、翌、1925(大正 15)年に営業開始し、昭和に

2 度の建物火災による廃業の危機を乗り越えて、2006(平成 18)年には、旅行新聞新社主催の第 31 回「プロが選ぶ日本のホテル・旅館 100 選」選考審査員特別賞「小規模和風の宿」を受賞している。しかし、2011(平成 23)年 3 月 11 日の東日本大震災による影響で温泉が枯渇状態になった。1 か月ほどで再び源泉は復活したが、その後の余震の影響で、配管が損傷したり、別源泉の石垣が崩落したことにより、営業休止を余儀なくされた。

社長の二瓶晃一氏は小野町観光協会会長や谷津作行政区の副区長を務めが、あらためて「地域」があってこその「事業」であることを痛感し、2018(平成 30)年 4 月、地域とともに事業を再生し、かつ「ふくしま」の復興を目指すことを目的として、地域の幅広い活動をサポートする「まちづくり office」を社内に立ち上げ、「こまち vision」と名付けた。同時に旅館をゲストハウスとして再生するプロジェクトを開始し、2019(令和元)年に営業を再開した(写真 9 参照)。

写真 9 Gest House Komachi の看板

[出典]こまち vision ホームページ「Guest House Komachi」(以下の URL)を参照。
https://www.komachivision.com/gesthouse/

また東堂山の北西にある「緑とのふれあいの森公園」(大字小戸神宇宮ノ前 397-2)ではオートキャンプ場、一般キャンプ場などがある。あぶくま高原には、標高 550m にあるオートキャンプ場「ACN あぶくまキャンプランド」(小野町浮金字日影 83-78)と「おのファミリーランドオートキャンプ場」(小野町浮金日影 83)がある。おのファミリーランドオートキャンプ場内には「日影温泉 鉄人の湯」がある。

### 3.5. 小野町・谷津作行政区の地域資源

図表 12 にまとめたように、小野町は自然環境資源にとても恵まれていて、高柴山、東堂山、矢大臣山などの自然豊かな山がたくさんそびえ立つ。高柴山は森林浴やトレッキングにも最適で、春から秋にかけて多くの登山者が訪れている。また、小野町の中央を通る夏井川の両サイドには両岸 5 キロメートルに渡り、ソメイヨシノ千本桜がきれいに咲き誇る。

図表 12　小野町･谷津作行政区の地域資源

| | |
|---|---|
| 小町温泉源泉「大地の泉」 | 今回、谷津作行政区からの県の「大学生の力を活用した集落復興支援事業」への申請は、この小町温泉源泉「大地の泉」を活用したまちづくりが課題である。 |
| 東堂山満福寺 | 大杉、鐘楼、昭和羅漢像など見応えがある史跡がたくさんある。 |
| 鹽竈神社の例大祭 | 宮城県塩竈市にある鹽竈神社が総本社。 |
| 夏井川千本桜 | 夏井川沿いの耕地が土地改良事業により構造改善されるのをきっかけに、同地区の河川改修が行われたことを契機に、「わたしたちの郷土を美しい桜の里に､そしてこの桜のもとに郷土の和合を」との願いを込め、夏井地区、南田原井地区の方々が 1975(昭和 50)年 4 月に夏井川の両岸 5 キロメートルにわたり、ソメイヨシノの苗木 1,000 本を植樹したもの。 |
| 諏訪神社の神木翁杉・媼杉(じじすぎ・ばばすぎ) | 国の天然記念物、樹齢 1200 年 |
| 高柴山のヤマツツジ | 高柴山で山頂にかけて約 3 万本のヤマツツジが咲き誇る。 |
| 矢大臣山 | 県立自然公園に指定されている。標高 965 メートル。遠く太平洋まで一望できる眺望が良く､春にはアズマギクやヤマツツジが咲き競う。登山口は、湯沢登山口(小野町)と小白井登山口(いわき市)があり、それぞれ 1 時間 20 分ほどで山頂にたどり着ける。 |
| リカちゃんキャッスル | 1967(昭和 42)年に発売された初代リカちゃん以来の歴代の製品を展示するミュージアムが併設 |

[出典]小野町ホームページ等から筆者作成。

### 3.5.1. 小町温泉の源泉「大地の泉」

小野温泉の源泉「大地の泉」は地元農家の土地の一角に自噴している(写真 10)。温泉の温度が 28℃と低いため、温泉として使うためには加温が必要となる。震災後に一度、源泉が止まったが、1 か月後には復活したという。この源泉で営業していた旅館は廃業したため、現在は更地になったところに、温泉だけが自噴している。源泉が他の地域では復活まで 3 か月もかかったが、谷津作地区では 1 か月間で奇跡的に源泉が復活したことから「大地の泉」と呼ばれるようになったということである。

源泉の歴史はいつから始まったのか明らかな書物はないが、源泉近くに住む白岩さんが持つ 1904(明治 37)年の『田村郡郷土史』[3]によると、気候・風土の項目ですでにその時代から自噴していたことが書かれていた。昔は、源泉近くに温泉があり、地域の人々が湯につかり、また手伝いをしていたことから町のコミュニティの拠点ともなっていた。

---

[3] 『田村郡郷土史』は、国立国会図書館デジタルコレクションに所蔵されており、以下の URL から参照できる。35 コマ目からの「第十二　鑛泉」のページには「田村郡は山脈の間にあって高く、火山の系脈がなく鉱泉はほとんど稀である。ただ小野新町と、滝根村夏井村に 1、2 の微温の鉱泉あるのみである。」「谷津作の湯は小野新町大字谷津作にあって、平坦で四面を田んぼに接して、田畔 2 カ所に泉が出ている。」「鉱泉は無色清澄で、味はなく、極めて微弱な硫化水素臭を放ち、反応は中性である。」と説明されている。
(https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/763381)

写真 10 小町温泉の源泉「大地の泉」

源泉の周囲は自然が広がっており、のどかな田園風景が広がっている。隣の田んぼで、はさがけされた稲を取り込んでいた、白岩さんご夫妻は、「温泉が湧き出ているのでぬかるんで稲刈り機も入らず、手刈りしなければならないが、美味しいコメができる」と話してくださった(写真 11)。

写真 11 天日干しした稲の取り込み作業をしていた白岩夫妻

自噴している場所はぬかるんでいて耕作放棄地であるため、源泉周りの管理も必要となるが、自噴している源泉も少し温めれば足湯などとしても地域の人の憩いの場としての活用や、観光客を誘致できるかもしれない。駅から近いのでアピールするものがあれば観光客は訪れやすい。源泉の近くに草が生えていたり、噴出口が汚れているため、それらをどのように加工していくか、あるいは、何もせず自然のままにするのかなど考えていく必要がある

と感じた。また近くには温泉神社の社がひっそり立っていて、近くに 2 つ目の源泉がひかれていた。温泉神社も整備したら、観光客に立ち寄ってもらえそうに感じた(写真 12 参照)。

写真 12　小町温泉の 2 つの源泉とその周辺

**「大地の泉プロジェクト」**

2018(平成 30)年に、震災後放置されている自然噴出の温泉・小町温泉の源泉を「大地の泉」として捉え、これをシンボルとした地域づくりに地域内外の人達がアイデアを出し合っていくプロジェクトが立ち上がった。このプロジェクトは、復興庁の「平成 30 年度地域づくりハンズオン支援事業(共創イベント型)」に選定されて、「福島県の中山間地域活性化のモデルをめざす『大地の泉』復活・創生プロジェクト」として支援を受けた。

### 3.5.2. 鹽竈神社の例大祭

私たちが小野町に現地調査に入った 9 月 28 日(土)には、ちょうど鹽竈神社例大祭が行われていた。2019(令和元)年度の鹽竈神社例大祭は、中通若連を当番町として、9 月 27 日(金)前夜祭、28 日(土)神輿渡御、29 日(日)神輿還御が執り行われた。私たちが小野新町駅に降り立った 28 日には、神輿渡御が行われており、各町若連を筆頭に御神輿を担ぎながら、神社から各町をまわり中通御仮舎(おかりや)まで神輿が練り歩くのを、こまち簡易郵便局付近で見学でき

た(写真 13 参照)。残念ながら、大倉獅子舞(県指定重要無形民俗文化財)が神社および各町行政区で奉奏されるのは、見られなかった。

鹽竈神社例大祭は 400 年もの歴史があり、地域交流の促進と伝統継承のため、毎年 9 月最終週の週末に行われる田村地区内でも規模の大きいお祭りである。子ども神輿も出て、子どもも参加していたが小学生が多く中高生は見当たらなかった。

写真 13 鹽竈神社例大祭 神輿渡御

また幸運にも、個人宅に上がらせていただいて、鹽竈神社の氏子宅を回って、宮司が個人宅の神棚の前で祈祷し、太々神楽を舞う祭事を見学させていただくことができた(写真 14 参照)。小野町の個人宅の神棚が大きいのには驚いたが、これも鹽竈神社のある小野町だからかもしれない。また、チームメンバーが太鼓のたたき方を教わるなど、大変貴重な経験をさせていただいた。

写真 14　鹽竈神社例大祭　氏子宅で神棚に奉納する太々神楽

### 3.5.3. 東堂山満福寺[4]

標高 668mの東堂山は小野町のシンボルの 1 つである。中腹には、807(大同 2 )年、坂上田村麻呂の勧請により高僧徳一大師が開山したといわれる満福寺がある。古くから家畜繁盛・守護のご利益があるとして広く信仰を集めてきた。稚児参りで地元の方々は子供の頃に行くそうである。だが、現在満福寺には住職はいない。

表参道の杉並木は江戸時代から植えられたもので、「東堂山のスギ林」として福島県「緑の文化財」にも指定されている(写真 15)。史跡名勝天然記念物に指定されている杉並木の表参道を抜けて、仁王門の山門をくぐり(写真 16)、階段を登っていくと、東堂山鐘楼(写真 17)にたどり着く。階段は、昔馬を駆っていた人々が連れて上る際に馬に合った歩幅に合わせて、広く作られているため、人間が登るには歩きにくいため、間にもう 1 段細かな階段が配置されて歩きやすくなっていた。

巨大な自然石の上に建つこの鐘楼は 1861(万延 2)年建立で、近世木造建築の粋を集めたものであり、小野町指定文化財に指定されている[5]。その梵鐘は第二次世界大戦時に供出され

---

[4] 小野町ホームページ「東堂山昭和羅漢」(以下の URL)を参照。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/7/mt-toudou.html)
FUKUSHIMA TRIP「目指せ 500 体！ユニークな羅漢さまが集う珍スポット満福寺『昭和羅漢』」(https://www.fukushimatrip.com/10697)を参照。
たむランド・ホームページ「【寺院-小野-11】東堂山満福寺」(以下の URL)を参照。
(https://tamuland.net/?p=530)

[5] 小野町ホームページ「町指定文化財」」(以下の URL)を参照。
(http://www.town.ono.fukushima.jp/soshiki/13/history-bunkazai2.html)

たが、1948(昭和 23)年 4 月に再鋳されたものである。

写真 15　東堂山のスギ林

写真 16　仁王門から東堂山鐘楼を見上げる

写真 17　東堂山鐘楼

写真 18　東堂山観音堂

境内の観音堂(写真 18)は焼失により 1971(昭和 46)年に再建されたものとのことだが、その観音堂の脇を奥に進んでいくと、山の斜面一面に奉納された羅漢様が姿を見せる(写真 19)。2018(平成 30)年 8 月 1 日時点で 471 体もの、さまざまな表情をした羅漢様が奉安されていて、圧巻であった。羅漢像は 1985(昭和 60)年から奉安が始まったということであり、「昭和羅漢」とも呼ばれている。永六輔・中村八大・坂本九の「六八九羅漢」も奉安されている。

羅漢様は一体一体が違う造りをしていて、どの羅漢もそれぞれの奉納された依頼主の気持ちや性格を表しているように見えた。

誰でもお金を払って奉納を依頼すれば、どのような形の羅漢像も作って奉安することができるとのことであり、現在五百羅漢を目指しているが、500 体になっても奉安は受け付けるということである。

写真 19 東堂山羅漢様

### 3.5.4. リカちゃんキャッスル

リカちゃんキャッスルは 1993 年にリカちゃん誕生 25 周年記念として造られたテーマパークである(写真 20)。おそらく、小野町で最もメジャーな観光資源であり、これを目当てに県内はもちろん関東一円からも観光客が訪れていた。

写真 20 リカちゃんキャッスル

写真 21 リカちゃんミュージアム

写真 22 リカちゃんショップ

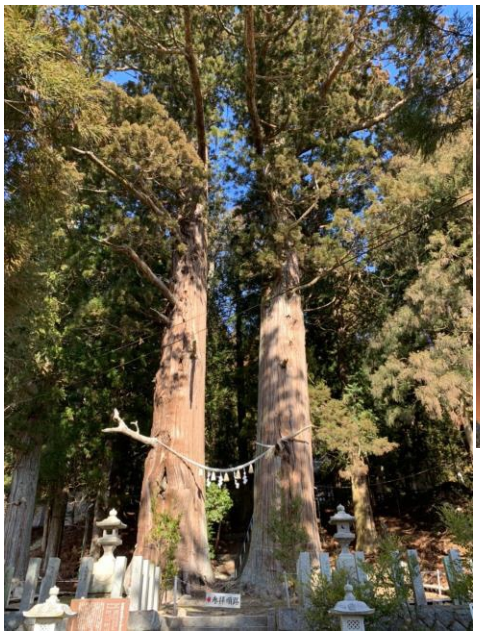
写真 23 リカちゃんファクトリー

リカちゃんミュージアム(写真 21)では歴代の人形を見ることができる。また、オープンファクトリー(写真 23)では製造工程を見学することもでき、工場で生産されたリカちゃんの販売も行われており、自分だけのオリジナルリカちゃんも購入することができる。

### 3.5.5. 諏訪神社の神木翁杉・媼杉(じじすぎ・ばばすぎ)

JR 磐越東線夏井駅から徒歩 5 分の場所に諏訪神社があり、その境内に 2 本の巨大な杉が並んで立っている(写真 24)。社殿に向かって右側が翁杉(じじすぎ)、左側が媼杉(ばばすぎ)である。神社の神木として 2 本が相対して残っている例は少なく、貴重なものということである。樹齢 1200 年を誇る大きな杉で仲睦まじい夫婦のように寄り添って、天高くそびえたつことから、夫婦が共に達者で老いることを祈り、長寿にあやかりたいとして「翁杉・媼杉」と名付けられたとされている。1937(昭和 12)年、国の天然記念物に指定された。

写真 24 諏訪神社の翁杉・媼杉



## 4. 小野町・谷津作行政区の抱える問題と課題

ここでは、2 度の現地調査によって学生目線で捉えた地域の抱える問題点を列挙して、それらの問題点から、小町温泉源泉「大地の泉」を活用したまちづくりを進めていくうえで、私たちが今後、取り組んでいくべき課題を明確にする。

### 4.1. 現地調査から得られた問題点

2 度の現地調査によって、学生のよそ者、若者目線で捉えた地域の抱える問題はおおよそ、以下の通りと思われる。

①地域資源が少ない。

リカちゃんキャッスル、東堂山満福寺、諏訪神社の翁杉・媼杉などの観光資源はあるが、

実際に地域の人が集まり、若年齢層が集い遊ぶ場所という意味では地域資源はほとんどなく、若者は郡山やいわきへと出掛けてしまう。生徒・学生が勉強できる場所としても図書館のみしかない。

②自然が上手く活用できていない。

小野町・谷津作行政区では自然がたくさんあるが、それらが上手く活用されていない。高齢化の影響により農業耕作放棄地や小野町中に存在する森林も使われず放置されている。ただ、町内にいくつもあるオートキャンプ場などを視察していれば、多少印象が変わったかもしれない。

③地域の活気が少ない。

お祭りなどのイベントがある場合は活気あふれているが、そのほかはお店なども閉まっており、地域の活気が感じられなかった。商店街もほとんどがシャッター街となっており、営業している店も少ない。

④少子高齢化、後継者不足

若者の若者は高校、大学や仕事でほかの町へと出て行ってしまう。子供の人数もどんどん減っていき、小学校や中学校が合併している。またお店や農業などの後継ぎがいないため商売を続けられない人々が多くいる。例を挙げると、福島県でテレビに放映されてから人気の出た小野町の名物でもある砂糖パンを父親の代から受け継いでいる大楽哲男氏は後継ぎがいないということである。また東堂山満福寺にも元々いた住職に跡取りがおらず、いまは住職がいなくなっている。

⑤移住してきた方々が地域の人と仲良くなるのに時間がかかる。

小野町には地元で生まれ育った方々が多いので、その輪に入るのは大変である。

⑥交通が悪い。

バスや電車の本数が少なく、車を所有していないと移動ができない。

### 4.2. 問題点から設定した取り組むべき課題

第 1 回目の現地調査の際に、9 月 29 日には、谷津作研修センターにて、小町温泉源泉活用検討委員会に参加する方々と意見交換を行った。その際、小町温泉源泉「大地の泉」を活用したまちづくりについて、学生目線で何の制約条件もなく、提案して欲しいと依頼を受けた。魅力的な提案であれば、予算が掛かってもそれを何とかすることを考えるということであった。

小町温泉源泉「大地の泉」を活用したまちづくりは、谷津作行政区だけで考えるのではなく、小野町全体で、子どもたちも含め、地域の住民を巻き込んで、企画をまとめていく必要があると考える。小野町の歴史・魅力など地元学をしっかりと地元住民が学び、町外の人に発信していくことで地域を活気づけることができると考えた。つまり、地元住民が地元学を学び、「小町温泉」の歴史にも目を向けて、小町温泉復活を期待する声が大きくなってこそ、地元の人も訪れてくれて、人気が出る地域資源となるだろう。小町温泉源泉「大地の泉」を

復活させて活用することによって地域のつながりをさらに深め、地域の抱える問題を解決していきたい。

## 5. 課題解決のための提案

### 5.1. まちづくりマルシェの開催

小野町全体で、子どもたちも含め、地域の住民を巻き込んでいくために、町内においてまちづくりの機運を盛り上げていく必要があると考える。そのための 1 つのイベントとして、マルシェを開催したい(図表 13 参照)。若者にマルシェに出品したり、買い物に来てもらい、若者を巻き込んで、自分たちが町の未来を作っていくんだという、当事者意識を高めていきたい。

夏頃に、小野小学校の校庭を使って開催したらどうだろうか。小野町産の野菜・特産品や小野高校生が商品開発した一笑漬けドレッシングなどの模擬店販売を行うほか、小中高生が音楽発表等なども実施する。マルシェの運営には、もちろん私たちのチームも協力するが、地元の中高生・大学生のボランティアを動員したい。若者が関わることで、地域を活性化していくのがポイントである。

図表 13 まちづくりマルシェの開催の提案

| | |
|---|---|
| 企画の概要 | ・小野小学校の校庭で、マルシェを開催する。<br>・小野町産の野菜・特産品や小野高校生が商品開発した一笑漬けドレッシングなどの模擬店販売<br>・子供たちの音楽発表等も実施 |
| 期待される効果 | ・子どもたちも含め、地域の住民を巻き込んでマルシェを開催することで、町内においてまちづくりの機運を盛り上げていく。<br>・小野町の魅力を地元住民が認識して、町外の人々にも伝えていく環境を整える。地域の住民同士や地域住民と外部からの来場者の交流が生まれることで、地域住民が地元の魅力を再認識できる。<br>・私たちのチームのメンバーも地域の人と関わり、そして交流をすることで小野町についてもっと知ることができる。<br>・U・I ターンの移住者を含めて、地域の人々がさらに仲良くなれるコミュニティを作っていくきっかけとしたい。<br>・町内外から来場者が集まることで、将来、小町温泉が復活した際に、「行ってみよう」という顧客を増せる。 |
| 具体的な企画案 | [時期]夏休み頃<br>[場所]小野小学校、もしくは商店街<br>[客を呼び込む仕組みづくり]小学生に「マルシェ開催のお知らせ」を家に持ち帰ってもらい、ご家族に広報する。地域の回覧板で広報する。小野町のホームページにアップしてもらうほか、SNS で発信する。<br>[イベント]地域学を学ぶワークショップを行う。小中高生が音楽・ダンス・書 |

| | |
|---|---|
| | 道などの発表会を行ったり、お飲物や手作り菓子を提供するカフェを開催し、来場者がゆったりと会話を楽しむ場を設ける。 |
| 参考にした事例 | 図表 14 に、さまざまな形態のマルシェをまとめたので、そちらを参照されたい。 |

図表 14 にまとめたように、現在、全国ではさまざまな形態のマルシェが行われている。コンセプトをしっかりと設定して、出店者や音楽発表会等の参加者を確保していくことで、一定程度の来場者は確保できるはずである。イベントが少なく、若者の遊ぶところもないので、カフェを併設して若者同士の交流の場となれば、そこからまた面白い企画が飛び出すかもしれない。

図表 14 さまざまな形態のマルシェ

| マルシェ | コンセプト・特徴 | 開催頻度 | ホームページ |
|---|---|---|---|
| Farmers Market @UNU | LIFE WITH FARM—野良を目指して— | 毎週土日、青山の国連大学前で開催 | http://farmersmarkets.jp/ |
| すみだ青空市ヤッチャバ | 食を介して人をつなぐ。人を介して地域をつなぐ。 | 毎週土曜、曳舟駅前で開催 | http://yacchaba.tokyo/ |
| 太陽のマルシェ | 日本最大級規模の都市型マルシェ | 毎月 1 回、土日勝どきの月島第 2 児童公園で開催 | http://timealive.jp/marche/report/# |
| Acha Acha(あちゃあちゃ) | まちをリビングにするマルシェ | 年 1 回 5 月越谷市で開催 | https://acha-acha.wixsite.com/event |
| 新そば収穫祭&軽トラマルシェ | 瀬川地域づくり協議会が獨協大学セガワ応援隊の協力を得て開催 | 年 1 回、11 月瀬川住民センターで開催 | なし |

[出典]筆者作成。

写真 25 越谷市で開催された Acha・Acha の様子

[出典] Acha・Acha よりご提供。

獨協大学地域活性化プロジェクト米山チームでは、お隣の田村市の船引町瀬川地区の集

落復興支援事業に関わっているが、2017年度の活動報告書において提案企画の1つとして、地域活性化のためのマルシェを提案し、2018年度より11月に「新そば収穫祭&軽トラマルシェ」の開催運営に協力している。マルシェの設営と新そばの提供、「喫茶セガワ」というカフェの運営に協力している。これらのノウハウも使って、小野町でもマルシェを開催していきたい。

### 5.2. 温泉開発モデルの選択肢の提示

小町温泉源泉「大地の泉」を活用したまちづくりが、今回の福島県「大学の力を活用した集落復興支援事業」の中心課題である。前項で述べたマルシェの開催を利用して、小野町全体で小町温泉源泉を利用したまちづくりの機運と小町温泉を復活に対する期待感を高めて、事業を進めていくことに対する理解を得られる環境を整える。その上で、やはり重要となってくるのが、小町温泉源泉「大地の泉」をどのような形で活かして、まちづくりに資する資源として有効活用していくかを詰めていくことが最も重要な課題となる。私たちは今年度チームで議論をして散発的なアイデアは出たものの、知識も経験もない学生では、確信をもって特定の活用方法を提案することはできないと判断した。

そこで、私たちができることは、小町温泉源泉を活用したまちづくりをどのように進めていけば、地域住民を巻き込んで、住民の理解と支持を得ながら、小町温泉源泉を活用していきけるかということを提案し、次年度以降実施していくことである。

図表 15　小町温泉開発モデルの選択肢

| 温泉開発モデルの選択肢 | まちづくりに期待される効果 | 予算 | 今後の予定 |
|---|---|---|---|
| 1. 宿泊施設(旅館・ホテル) | ★★★★<br>•宿泊客は地域にお金を落とす金額が最も大きい。<br>•雇用やサポーティングインダストリーへの派生需要も生まれる。 | ★<br>大きい。予算の捻出が課題 | 温泉開発業者に湯量や温度、立地を視察してもらう必要あり(現在、パートナーを選定中) |
| 2. 日帰り温泉施設 | ★★★<br>•気軽に入りに行ける。<br>•地域コミュニティの新しい場となる。<br>•雇用やサポーティングインダストリーへの派生需要も生まれる。 | ★★<br>大きい。予算の捻出が課題 | 温泉開発業者に湯量や温度、立地を視察してもらう必要あり。 |
| 3. 足湯、または足湯カフェ | ★★<br>•気軽に行ける。<br>•地域のコミュニティエリアとなる。<br>•若年齢層の遊ぶ場所にもなる。 | ★★★<br>大きな浴場を作らない分だけ少なく済む。 | 専門業者でなくても、地元建築会社と建築可能ではないか。 |
| 4. 温泉を使った商品開発 | ★★<br>•温泉成分の鉱泉水を利用して栽培したコメやその他の新商品を開発して新たな特産物とする。 | ★★★★<br>建物を立てないので、予算は小 | 温泉の効能を売りにした商品ができるか、全国の成功例を調査 |

[出典]筆者作成。

まず、図表15は、温泉開発モデルの選択肢を大まかに4つに分けて整理したものである。

1 つ目の選択肢は、宿泊施設(旅館・ホテル)にするというプランである。このプランは、宿泊客を泊めるという形態であり、観光客が地域にお金を落とす金額が最も大きいだけでなく、従業員として雇用が生まれるだけなく、食材の供給や洗濯などサポーティングインダストリーへの派生需要も生まれる。何軒も集まった温泉街でなければ、この派生需要は限定的かもしれないが、宿泊施設の規模にもよるが、他の 3 つの選択肢に比べて、もっとも地元への経済波及効果は大きいと考えられる。しかし、予算規模は他の 3 つの選択肢に比べると格段に大きくなって、予算の捻出が課題となろう。町営施設として建設するならば、議会を通していかなければならない。

顧客ターゲットは、近隣以外の宿泊旅行客ということになる。施設自体を特徴あるものにできれば、遠方からも宿泊自体を目的として顧客を集客できるが、それほど特徴がない一般的な施設であれば、小野町や田村地区への観光客の宿泊先の一つとして、田村市滝根町の「針湯荘」(田村市滝根町広瀬字針湯 62)などと競合する施設となるかもしれない。このような場合には、小野町全域で観光資源を売り出していき、小野町に宿泊客を引きつける努力が必要となろう。

また、温泉開発業者に湯量、泉質、温度、立地などを調査してもらう必要ある。現在、パートナーになってもらえそうな業者にコンタクトを取っているところである。

2 つ目の選択肢は、日帰り温泉施設にするというプランである。宿泊施設(旅館・ホテル)であれば、地元の人々はあまり泊りがけで行かないかもしれないが、日帰り入浴施設であれば気軽に温泉に入りに行ける。風呂に入りながら、あるいは休憩所で、入浴客がコミュニケーションをとるという、新しい地域コミュニティの場となることが期待される。近隣住民に無料で入れるようなチケットを配付するなどすれば、近隣住民が集まる仕組みを作ることもできる。日帰り入浴施設でも、雇用やサポーティングインダストリーへの派生需要は生まれる。宿泊施設に必要ないようなお食事処を併設した休憩所を設置すれば、そこで働く雇用や食材需要も生まれる。

日帰り入浴施設であれば多くが平屋、もしくは 2 階建て程度の施設として建設されるので、予算は宿泊施設ほどではないかもしれないが、それでもかなりの予算が必要となる。また温泉開発業者に湯量、泉質、温度、立地などを調査してもらう必要あるのは、宿泊施設の時と同じである。

3 つ目として、足湯、または足湯カフェとするプランである。足湯であれば、気軽に行けるので、地域のコミュニティエリアとなると期待できる。また、足湯カフェとすれば、若年齢層に訴求できて若者が集う場所にもなりうる。

予算も、一般的には大きい浴場を作らないので、少なく済む。カフェなどを併設したりすると、もちろんその分、建設予算は大きくなる。ただ入浴施設でなければ、開業免許も異なり、専門業者でなくても、地元建築会社と建築可能ではないかと思われる。

足湯、または足湯カフェとするプランについては、若干検討してみた結果を次項にまとめておいた。考察した限りにおいては、足湯はあり得ないだろうし、足湯カフェだけで遠方か

らの観光客を集客できるようなインパクトのある施設を作るのは難しいと思われた。地元の若者が集まる施設にはできるかもしれないが、まちづくりに期待される効果は限定的であろう。

4 つ目として、温泉を使った商品開発を行うプランがある。温泉成分の鉱泉水を利用して栽培したコメやその他の新商品を開発して新たな特産物とする。温泉での特産品と言えば例えば、温泉卵や温泉まんじゅうなど、温泉地のお土産としての商品はよくあるが、温泉地として知られていない状況で、温泉地のお土産は厳しいだろう。鉱泉水を利用したコメの栽培、ナマズの養殖など、鉱泉水の有効成分を利用した農産物や魚類の養殖などは、鉱泉水を温泉としてではなく、ぬるい水温のまま利用できる。予算としてはも必ずしも建物を立てる必要はないので、少ない費用で行えるプランである。ただ、鉱泉水に健康や美容、長寿に効能のある成分が含まれていることが知られているとか、古くから効能が知れ渡っている温泉であるとかであればヒット商品を開発できるかもしれないが、そうでなければ、まちづくりに期待される効果はあまり大きくないかもしれない。いまも源泉近くの田圃には鉱泉水が湧き出していていて、美味しいコメができるということであるが、鉱泉水を利用したコメの生産量を増やす余地がなければ、その影響は限定的にとどまるだろう。温泉の効能を売りにした商品ができるか、全国の成功例を調査する必要がある。

現段階では、「小町温泉」として、小野小町の生誕の地として観光客を集めていくことを考えれば、「美人の湯」として入浴施設として開発していくのがよいと思われる。できれば宿泊施設(旅館・ホテル)が望ましいと思われるが、日帰り温泉施設でもいいかもしれない。いずれにしても、温泉開発の専門業者に調査してもらう必要あると思われるが、私たちでも次年度は温泉利用のビジネスモデルについて研究していきたい。

### 5.3. 足湯、または足湯カフェ・プランについての若干の考察

ここでは、前項で温泉開発モデルの 4 つのプランのうちの 1 つに挙げた、足湯と足湯カフェについてネット検索した範囲で、若干考察してみたい。

図表 16 に福島県内の主な足湯をネット検索した結果の一部をリストアップした。調べてみると、「足湯」のみの施設はほとんどが、有名な温泉街の中に宿泊客が街中を散策したり、外湯巡りをする時に立ち寄るときに立ち寄る施設として作られていたり、温泉の最寄り駅に電車の待ち時間に入るような施設として足湯が設けられている。したがって、無料で観光客に利用できる公共施設として作られているものがほとんどである。つまり、すでに観光客を受け入れている温泉地の付随サービスとして設置されていると考えてよいだろう。

図表 16 福島県内の主な足湯リスト(抜粋)

| 名称 | 住所 | 所在地 |
|---|---|---|
| 波来湯(はこゆ)公園内の足湯 | 福島市飯坂町若葉町 39 | 飯坂温泉最古の共同浴場「波来湯」の隣の公園 |
| ちゃんこちゃんこの湯 | 福島市飯坂町湯野湯ノ上 10-3 | 飯坂温泉 |
| 岳温泉 足湯 | 二本松市岳温泉 1 丁目 248 | 二本松市にある活火山安達太良山 |

| | | |
|---|---|---|
| | | の中腹にある岳温泉 |
| 土ゆっこ | 福島市土湯温泉町上ノ町 8 | 土湯温泉 |
| 月のゆぶじぇ | 福島市土湯温泉町杉ノ下 36 | 土湯温泉 |
| | | |
| 磐梯熱海駅前足湯 | 郡山市熱海町熱海 2 丁目 9 | 磐梯熱海温泉 |
| ケヤキの森足湯 | 郡山市熱海町熱海 5 丁目 16 | 磐梯熱海温泉 |
| 愛湯物語 | いわき市常磐湯本町天王崎地内 | JR 湯本駅を出てすぐ右手にある、源泉掛け流しのあし湯広場 |
| 鶴の足湯 | いわき市湯本町三函 281-1 | いわき湯本温泉の温泉街の中にある鶴の足湯広場 |
| 東山温泉 足湯処 | 会津若松市東山町大字湯本滝ノ湯 110 | 東山温泉 |
| 足湯 足ポッポ | 会津若松市大戸町大字芦牧下タ平 | 会津芦ノ牧温泉の芦ノ牧中央バス停そば、芦ノ牧プリンスホテルの向かい |
| 湯野上温泉駅足湯 | 南会津郡下郷町湯野上大島乙 74 | 湯野上温泉駅に隣接 |

[出典]筆者がネット検索により抽出。

福島県以外の足湯については、やはり温泉地が併設する小規模の無料の足湯はたくさんあるので、割愛する。足湯でも有料施設として多くの集客をしている人気施設を 1 つ挙げておこう。「塩原温泉 湯っ歩の里」(栃木県那須塩原市塩原 602-1)[6]は、年間 6 万人が来場する人気施設である(写真 26)。「鏡池」をぐるりと囲む「足湯回廊」は源泉をかけ流しする全長 60m で、日本最大級といわれる名物「足湯」である。ベンチに腰掛けて、塩原の豊かな自然を眺めながらゆっくり足湯浴を楽しめる。また、浴槽内には足裏を刺激する石があり、歩くことで足つぼを刺激し足湯浴の効果をアップさせてくれる。

写真 26 塩原温泉 湯っ歩の里

[出典]左:ジョルダン季節特集のご案内「温泉特集」(https://sp.jorudan.co.jp/onsen/details/1897/)から引用。右:PLAY LIFE(日本最大級！遊びプラン投稿メディア)ホームページ「那須塩原の隠れたおすすめ観光スポット！妙雲寺の牡丹と百観音、足が疲れたらゆっ歩の里へ♪」(https://play-life.jp/plans/3153)から引用。

[6] 「塩原温泉 湯っ歩の里」ホームページ(以下の URL)を参照。「足湯回廊」「鏡池」「飲泉堂」などの施設があるほか、敷地内では季節ごとの花木が観賞でき、回遊庭園として散策が楽しめる。湯っ歩の里は、那須塩原市から北関東綜合警備保障株式会社が指定管理会社として委託を受けて、営業している。(http://www.alsok-shiobara.jp/yuppo/guide.html)

もちろん那須塩原の観光地の集客基盤があって、年間 6 万人もの人が来場する人気スポットになっているので、単純にこの施設だけの集客力とは言えないが、これだけ規模の大きい施設にすれば、ある程度の集客力は見込めるかもしれない。

次に、足湯カフェについてネットで調べてみると、福島県内について吾妻連峰に囲まれた渓谷にある土湯温泉に開業している「足湯 cafe CASVAL」(福島市土湯温泉町杉の下 20)[7]ただ 1 つだけがヒットした(写真 27)。足湯が基本的に無料で開放されている施設であるのに対して、足湯カフェはカフェに足湯を併設しているものであり、カフェなので民間業者がクローズドのスペースで料金を取って営業するものである。

写真 27 足湯 cafe CASVAL

[出典]食べログ「足湯カフェ キャスバル」(以下の URL)を参照。
(https://tabelog.com/fukushima/A0701/A070101/7016240/

次に、都内をはじめとして、全国の足湯カフェについてネットで検索してみたので、図表 17 にまとめた。「足湯カフェ もみの湯」は都内をはじめ、いくつも店舗を出して営業している。「HOGUREST total care salon+café」「拿叡姝(ナイェジュ)」はそれぞれ 1 店舗のみだが、マッサージ、ハーブティー、薬膳料理など、癒しとか健康志向といったことを売りにして、足湯プラスαの方をメインとして提供し、それに付加価値として足湯を付けているというビジネスモデルと考えられる。ただ、都会で営業しているのは、癒しを欲している都会人をターゲットにしているビジネスであり、小野町に立地してこのビジネスモデルが成功するかどうかは疑問である。

また、川越、鎌倉、京都大原など、観光地にある足湯カフェ「足湯喫茶椿や」「座(くら)かふぇ」「大原山荘足湯カフェ」は、まち歩きをした観光客が立ち寄るカフェとして営業していて、まち歩きで疲れた足を癒す足湯を付けたというコンセプトである。また、「足

[7] Ameba ブログ「足湯 cafe CASVAL」(https://profile.ameba.jp/ameba/casval-account/)を参照。

湯喫茶椿や」「座(くら)かふぇ」は「アミナコレクション」[8]が展開する店舗である。このケースではそもそも一定の観光客が来ている観光地であることが前提であるので、小野町の現状では少々厳しいように思われる。

図表 17　都内をはじめとした、全国の主な足湯カフェ(抜粋)

| 名称 | 所在地 | 参照 URL、概略 |
|---|---|---|
| 足湯カフェ　もみの湯 | 渋谷道玄坂店・上野店・池袋東口店・松戸駅前店・京都河原町店(四条河原町) | アーユルヴェーダサロン&足湯カフェ　もみの気ハウス・ホームページ「足湯カフェ」(以下の URL)を参照。(https://www.mominokihouse.jp/asiyu.html)<br>足湯×ハーブティー×湯もみマッサージで体中癒される上野の足湯カフェ。足湯に浸かっている状態でのマッサージはこの店の特許取得済みのマッサージ法とのこと。 |
| HOGUREST total care salon+cafe | 御徒町 | HOGUREST: total care salon + cafe ホームページ「足湯カフェ」(http://hogurest.com/ashiyu)を参照。<br>足湯で温まった後には、奥にある施術ルームで経絡ほぐし・タイ古式マッサージ・オイルマッサージ・フェイシャルのコース等の本格的なマッサージを受けることができる。 |
| 拿叡姝(ナイェジュ) | 錦糸町 | 拿叡姝(ナイェジュ)ホームページ(以下の URL)を参照。(http://nayeju-beauty.com/)<br>厳選した素材で作られる薬膳料理を堪能できる足湯カフェ(フットバス)、よもぎ蒸し座浴、エステ(バンブーやホット黄土ボールを使った本格エステ、フェイシェルエステ)、韓方茶なども体験できる。 |
| 足湯喫茶椿や | 川越 | 川越椿の蔵ホームページ「足湯喫茶椿や」(以下の URL)を参照。(https://www.tsubaki-kura.jp/floorguide/#ginger)<br>和雑貨ショップ「倭物やカヤ」、パワーストーンショップ「岩座」、椿の大壁画と一緒に、蔵の中にある店舗。以下に出てくる「座(くら)かふぇ」と同じ、アミナコレクションの経営。 |
| 座(くら)かふぇ | 鎌倉 | 「岩座-IWAKURA-鎌倉小町通り店」3F「お清め足湯座かふぇ」<br>アミナコレクション・ホームページ「最大級の「岩座」が鎌倉小町通りに 12 月 28 日（金）新規オープン！」(以下の URL)を参照。(https://www.amina-co.jp/news/2018/95090/)<br>湘南の人と情報が集まるコワーキングスペース「ENJOY WORK」ホームページ「【鎌倉小町通り新パワースポット！お清め足湯「座 KURA」カフェ】いい湯といい眺望でほっこり開運！」(https://enjoywork.blue/kamakura-kuracafe/)を参照。<br>フリードリンク・アイスキャンディーと足湯。足湯は富士山の溶岩プレートを使用した体の芯から温まる大きい浴槽の「溶岩足湯」、開運の「さざれ石足湯」や、柚子や桃の香り |

[8] アミナコレクションは、企業理念といて「私達はフォークロアに根付いて創造の源泉とし、さまざまな業態と商品を産み出します。そしてフォークロアを発信する拠点店舗を展開し、卸のキャラバンを躍動させ、民芸のオアシスを広めます。」を掲げてフォークロア再創造を展開する会社である。アミナコレクション・ホームページ(以下の URL)を参照。(https://www.amina-co.jp/company/)

| | | |
|---|---|---|
| | | のお清め塩を選べる「酒樽足湯」の 3 種類。「溶岩足湯」からは、鎌倉の街並みを眺めることができる。 |
| 大原山荘足湯カフェ | 京都大原 | 京都 大原温泉｜湯元のお宿 民宿大原山荘 公式サイト「足湯カフェ」(以下の URL)を参照。(http://www.ohara-sansou.com/cafe/)<br>京都大原観光保勝会ホームページ「大原山荘 足湯カフェ」(以下の URL)を参照。(https://kyoto-ohara-kankouhosyoukai.net/detail/5295/)<br>京都大原温泉 寂光院の隣にある「湯元のお宿 民宿 大原山荘」が併設する足湯カフェ。ワンドリンクセットでカフェとして営業。 |
| 足湯カフェ･espo | 鬼怒川 | PLAY LIFE(日本最大級！遊びプラン投稿メディア)ホームページ「癒し旅♡鬼怒川温泉半日モデルプラン♪「サンシャインきぬ川」絶景に足湯カフェ」(以下の URL 参照)(https://play-life.jp/plans/28384)<br>ホテルサンシャイン鬼怒川ホームページ「館内めぐり」(以下の URL)を参照。(https://www.sunshine-kinugawa.co.jp/facilities/index.html#cafe)<br>ホテルサンシャイン鬼怒川 1F にある足湯付きのカフェテラス。ウッドデッキのテラスに出ると、鬼怒川の絶景ポイント「鬼怒楯岩大吊橋」と鬼怒川渓谷を見下ろす絶好のロケーションが魅力。 |

[出典]筆者がネット検索により抽出。

また、京都 大原温泉の湯元のお宿 民宿大原山荘 公式サイトでは、「足湯カフェ」について、「散策を終えた後、BGM に耳を傾けながら、疲れた足と乾いた喉を一緒に癒していただきたい、それが足湯カフェです。」「窓外の眺めに見入って 10～20 分浸かるだけで、暖かい血液が全身を駆け巡り、お風呂に入浴した事と同じ効果が得られます。」と紹介している(写真 28 参照)[9]。

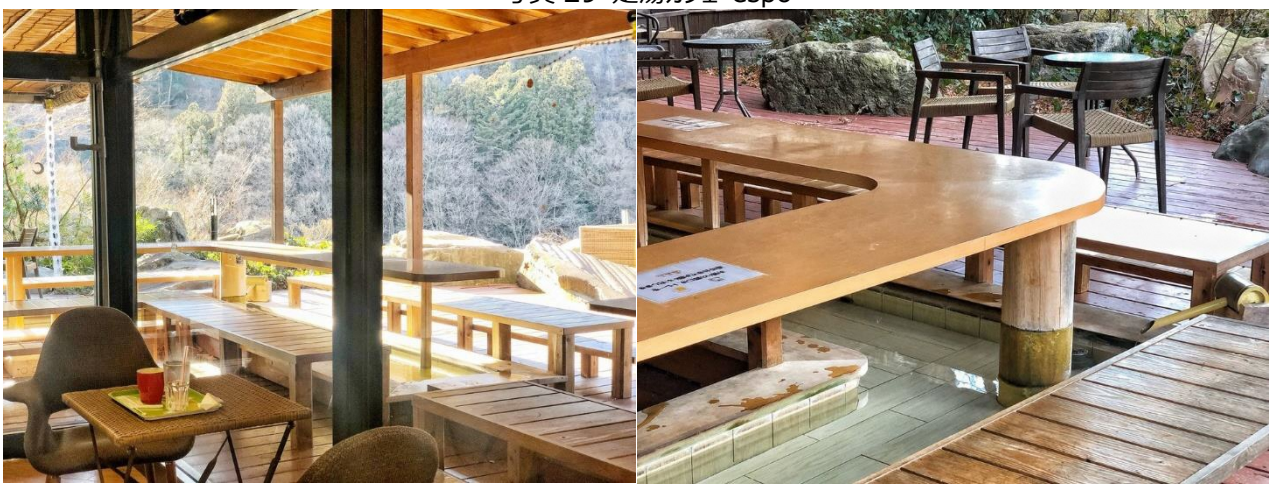
写真 28 大原山荘 足湯カフェ

[出典]京都大原観光保勝会ホームページ「大原山荘 足湯カフェ」(以下の URL)を参照。(https://kyoto-ohara-kankouhosyoukai.net/detail/5295/)

[9] 京都 大原温泉｜湯元のお宿 民宿大原山荘 公式サイト「足湯カフェ」(以下の URL)から引用。(http://www.ohara-sansou.com/cafe/)

最後に紹介したいのは、鬼怒川温泉の「ホテルサンシャイン鬼怒川」が 1F に併設している足湯付きのカフェテラス「足湯カフェ･espo」である(写真 29)。「足湯カフェ･espo」は、ウッドデッキのテラスに出ると目の前には鬼怒川の雄大な自然が広がるという絶景のロケーションが売りである。足湯は店内から外に出たところにあり、自然を満喫しながらカフェタイムを過ごすことができる。写真を見ると行ってみたくなるような足湯カフェである。

写真 29 足湯カフェ･espo



[出典] PLAY LIFE(日本最大級！遊びプラン投稿メディア)ホームページ「癒し旅♡鬼怒川温泉半日モデルプラン♪「サンシャインきぬ川」絶景に足湯カフェ」(以下の URL 参照)
(https://play-life.jp/plans/28384)

ネット検索して得られた情報からは、足湯単独の施設は、すべて有名は温泉地が温泉街や温泉への玄関口である駅などに設置された公共施設であり、「塩原温泉 湯っ歩の里」のような大きな施設を除いて、基本的に無料である。一方、足湯カフェは基本的にはカフェのビジネスモデルのさまざまなバリエーションであるので、屋内施設としてマッサージ、セラピー、薬膳料理、開運などを売りにしたビジネスモデルに付加価値として使われている。また、京都大原温泉の「大原山荘 足湯カフェ」と鬼怒川温泉の「足湯カフェ･espo」は観光地・温泉地の宿泊施設が併設している施設である。以上の考察からは、足湯単独での営業はかなり規模の大きい施設で作る必要があり、そうでなければ足湯カフェのビジネスモデルが参考になろう。このときもマッサージ、セラピー、薬膳料理など、プラスαのビジネスに相当のこだわりと強みがなければ、都内ではなく、小野町でのビジネス展開は厳しいものがあるだろう。したがって、ネット検索しただけの簡易的な検討ではあるが、ほぼリカちゃんキャッスルのみに依存している、小野町の観光の現状を考えると、ビジネスモデルとして足湯カフェも厳しいように思われる。まずは宿泊施設として「小町温泉」の看板を復活させることが、選択肢として有力になると考えられる。

### 5.4. 温泉を活用したまちづくり講演会・アイデアコンテストの開催

前項では、温泉開発モデルの 4 つのプランのうちの 1 つ、足湯と足湯カフェについて若干の考察してみた。だが、前項の考察だけで足湯、もしくは足湯カフェのプランを排除することは早急であろう。そこで、次年度以降、小町温泉開発モデルの選択肢の 4 つのプランから、どうやって選択肢を選んで、具体化していけばよいか、その方法について提案したい。

まず、地域住民に公開で、全国の温泉開発でまちづくりに成功した事例について、講師を招聘して講演会、あるいは講習会を開催したらどうだろうか。講演会・講習会によって温泉開発で地域活性化に成功するための条件などについて必要最低限の知識を共有することは実現可能な提案企画を作る上で必要なことであろう。あくまでも必要最低限の知識の供給に留めて、その上で、小町温泉を活用したまちづくりのアイデアを募集するコンテストを開催することを提案したい。

アイデアコンテストには、地元住民を巻き込んで地域の住民みんなで作っていくという意識になってもらうために、住民からアイデアを募ることも考えられる。アイデアコンテストへの参加募集を広く町民に呼び掛けて、地域の住民を巻き込んで温泉開発のプランを決めていくことで、みんなが小町温泉の復活を期待する機運を高めて、町内でコンセンサスを得ながら進めることができれば、予算調達や従業員を確保したり、完成後の顧客を確保しやすくなると考えた。

図表 18　温泉を活用したまちづくり講演会・アイデアコンテストの開催の提案

| | |
|---|---|
| 企画の概要 | ・地域住民に公開で、全国の温泉開発でまちづくりに成功した事例について、講師を招聘して講演会、あるいは講習会を開催する。<br>・小町温泉を活用したまちづくりのアイデアを募集するコンテストを開催する。 |
| 期待される効果 | ・講演会・講習会によって温泉開発で地域活性化に成功するための条件などについて必要最低限の知識を共有することで、実現可能な企画を作り上げることができりょうになる。<br>・アイデアコンテストへ町民に大勢参加してもらうことで、町内の住民に自ら主体的に小町温泉の復活に関わっていきたいという人を増やして、小町温泉の再生に対する理解を深め、将来の従業員や顧客を確保する環境を整えることができるだろう。 |
| 具体的な企画案 | [時期]9 月には講演会を開催し、11 月末もしくは 12 月上旬にはアイデアコンテストを開催したい。<br>[場所]小野小学校、もしくは小野町多目的研修集会施設<br>[客を呼び込む仕組みづくり]地域の回覧板で広報したり、小野町のホームページにアップしてもらうほか、SNS で発信する。 |
| 参考にした事例 | 全国のリノベーションプロジェクト｜ReReRe Renovation! (以下の URL)を参照。(https://re-re-re-renovation.jp/projects/)<br>草加市をはじめ、全国でいくつもの「リノベーションスクール」が開催されて、それに参加した人たちが「トレジャーハンティング」というお宝探しの |

| | |
|---|---|
| | まち歩きを通して、商店街などの活性化に向けた、ビジネスモデルの提案を行うコンペを行っている。コンペで評価されたビジネスモデルは、実現に向けて行政が協力するという仕組みである。 |

参考にした事例は、草加をはじめ、全国さまざまな自治体で開催されているリノベーションプロジェクトである。リノベーションプロジェクトでは、コンペに応募するのはリノベーションスクール参加者という限定したコンペではあるが、コンペは公開で行われて、コンペに地域住民が参加して、自分たちのまちの活性化提案を当事者として聴講できることで、地域住民を巻き込んでいる。このリノベーションスクールにあたるものが私たちの提案では講演会・講習会ということになる。したがって、基本的にはこの講演会・講習会に参加して、基本的な条件を共有していただいて方にプランを提案するコンペに参加してもらうことを考えている。

アイデアコンテストを実施するとしても、プランが白紙の段階でアイデアコンテストを開催するか、少し選択肢を絞り方向性を決めてから、細かな仕様に関してアイデアを求めるかなど、次年度に詰めていかなければならない点はたくさん残されている。

最後に、その方向性の決めていくために私たちのチームで考えたコンセプトをまとめておこう。私たちが考えたコンセプトは、これから作っていく施設は「持続可能な開発を目的として SDGs を視野に入れたコンセプトにしたまちづくりの拠点にする」というものである。具体的には以下のようなコンセプトを考えた。

・エコツーリズムの拠点に：若い世代などを小野町に呼び込み、田村地方の観光、農業体験、森のトレッキングなどを行ったのちに、温泉に浸かってもらうイベントを開催。
・再生可能エネルギーの普及に：太陽光発電パネルを設置して、再生可能エネルギーを利用した施設に。また再生可能エネルギーを学ぶスタディツアーにすることで訪問者に持続可能について学んでもらう。
・屋根や外壁の緑化：屋根や外壁に緑を植えることで、断熱効果を高め、光熱費を押さえる。低コストで消費電力を抑えられるだけでなく、建物緑化の施設が話題となることが期待される。
・地元の林業への支援：小野町産の木材を使用して施設を建設することで地産地消を促す。

アイデアコンテストを開催するとした場合、どの段階まで詰めて行うかは、重要である。例えば、私たちはアイデアコンテスト開催の運営に回って、一切に小町温泉の復活のプランを出さないのか、それとも図表で示した 4 つのプランをすべて具体化して提示した上で、それらのどれが魅力的に感じたかを投票してもらうという形で地域住民を巻き込むか、アイデアコンテストの開催にもさまざまなやり方があるだろう。

## ６．おわりに

私たち獨協大学地域活性化プロジェクト米山チーム Part 2 は、経済学部の 1 年生が 8 名

と多く、この学生を 3 年生の代表、副代表がまとめるチームである。入学して間もない時期に、福島県「大学生の力を活用した集落復興支援事業」に興味を持って参加した 1 年生は現地調査に入って、実際に現地を訪ねて、視察させていただいて、社会に対する問題意識を深めることができた。

今回の視察を通して小野町の良さに触れることができ、地域のつながりの強さを実感するとともに、さまざまな問題点が見えてきた。谷津作行政区だけでなく、小野町、さらには田村地方まで含めた広域連携で考えていく必要があると感じた。住民を巻き込み、議論に参加してもらうことで、さらなるアイデアが創出されると感じた。

今後の取り組みとして、温泉開発の専門家に調査依頼したり、住民の意識調査も行って、小町温泉の方向性を検討していきたい。SWOT 分析を行って、小野町の「温泉を活用したまちづくり」の強みと弱みを把握して、最適な温泉開発モデルを提案していきたい。小野町の調査を進めて、さらに小野町、および谷津作行政区についての理解を深め、地域住民の皆さんと交流を増やし、地域でまちづくりの機運を高めながら、最善の提案をしていきたい。

2020 年度に継続採択いただけたなら、まず小町温泉開発の 4 つの選択肢とその決定方法について谷津作行政区の皆さんのご意見も伺って決めていきたい。それらが決まったら、8 月までに工程表を作成して提示して、その工程表に基づいて実証実験を進めていきたいと考えている。

最後に、本調査をするにあたり「大学生の力を活用した集落復興支援事業」の運営事務局となっている福島県地域振興課の皆さま、谷津作行政区副区長で小野町観光協会長も務められている二瓶晃一さん、小野町役場企画政策課の吉田靖章さんをはじめとして、多くの方々にご協力いただいた。お世話になった多くの方々に、厚く御礼申し上げたい。

写真 30 小野新町駅に降り立ったメンバー

写真 31 小野新町駅前の案内図の説明を受けるメンバー

写真 32 小町温泉 Guset House Komachi の玄関にて記念撮影

写真 33　冬の小町温泉源泉「大地の泉」